

○委員長（平嶋正一君） それでは、引き続き所管事務報告に入ります。

出席職員の紹介をお願いいたします。部長。

○建設部長（森下義明君） また職員が入れかわりましたので、自己紹介をさせていただきます。

○土木課長（山田 学君） 土木課長をしております山田です。よろしくお願いいたします。

○土木整備担当係長（松永崇臣君） 土木課土木整備担当の係長をしております松永です。よろしくお願いいたします。

○建設部長（森下義明君） それでは、どうぞよろしくお願いいたします。

県営高尾川と鷺田川の報告をさせていただきたいと思います。

以前から委員の方々については、期成会の際も、また先日の8・22のときも直接県のほうの職員が出向きまして、研修室のほうでビデオを見ていただきながら進捗状況を説明させていただいております。繰り返しになるかと思いますが、済みませんが土木課のほうに来ておりますので説明をさせていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

○委員長（平嶋正一君） それでは、報告をお願いいたします。

○土木課長（山田 学君） それでは、前のスクリーンをごらんください。県営高尾川・県営鷺田川改修事業の進捗について報告させていただきます。

まず、高尾川床上浸水対策特別緊急事業の工事進捗についてです。

地下河川築造工事につきましては、9月2日の時点で発進立坑から約390メートルまでトンネル掘削が進んでおります。最新情報、きのうの時点でございますけども、約410メートル進んでいるところでございます。

次に、到達立坑部での作業状況ですが、シールドマシンが到達する際に立坑内に地下水が流れ込んでくるおそれがあるため、止水対策として事前に地盤改良を実施しているところでございます。矢印の方向、ここに鷺田川がございまして。ここからこういった形でシールドマシンが入ってきますので、赤枠で囲んだ範囲の地盤改良をしているところでございます。9月中には作業が完了する予定で、現在進められております。

次に、地下河川の出口となる流出施設工事につきましては、8月に入札が行われ、来年3月の完成を目指して工事に着手されているところでございます。

続きまして、鷺田川の河川改修工事について報告いたします。

バイパス河川を横断する管渠工事につきましては、9月末に入札が行われまして、来年3月末に完了する予定でございまして。この部分について、現在進められております。

護岸工事につきましては、物件移転との調整をしながら現在発注準備を行っている最中  
でございます。

以上で土木課の報告を終わります。ありがとうございました。

○委員長（平嶋正一君） ただいま執行部から報告を受けましたが、質疑のある方はござ  
いませんでしょうか。

田中委員。

○委員（田中 允君） 土木課というのは基本的にどういうことをしてあるんですか。

○委員長（平嶋正一君） 山田課長。

○土木課長（山田 学君） 県との調整などですね。この事業につきましては、高尾川・  
鷺田川期成会がございまして、そういった期成会と県とのパイプ役として、事務局という  
形で業務のほうをさせていただいております。

○委員長（平嶋正一君） ほかに質疑のある方は。辻本委員。

○委員（辻本美恵子君） 濟いませぬ、改めての質問ですけど、これが完成した暁には長  
いトンネルの中に水がためられるわけですよ、瞬間的な豪雨というか雨のときに。計算  
したら全体で何トン入るんですか。

○委員長（平嶋正一君） 森下部長。

○建設部長（森下義明君） 直径が5メートルになります。長さが約1キロ、1,000メー  
トルありますから…。

○委員（辻本美恵子君） 1万9,625。

○委員長（平嶋正一君） 部長。

○建設部長（森下義明君） 流入口から排出口に緩い勾配がついておりますので、これが  
満杯になるということではございません。県のほうから聞き及んでいるところでは、70ト  
ンが流れるということです。それと、当然流速といいますか、処理能力があります。貯水  
用の施設じゃございませぬで、流すことを目的をしておりますので、計算では地下河川  
で毎秒30トン流すという計算をされております。

○委員（田中 允君） 普通の川。

○建設部長（森下義明君） まさしくそうです。普通の川ですね。

○委員長（平嶋正一君） 田中委員。

○委員（田中 允君） それと、前に二日市中学校のグラウンドに貯留ダムというか、貯  
留施設というかをつくったけど、あれは何トンぐらいだったかな。念のために。

○委員長（平嶋正一君） 森下部長。

○建設部長（森下義明君） 約900トン。

○委員長（平嶋正一君） 田中委員。

○委員（田中 允君） 普通はその900トンが空になっているわけでしょう。で、雨が降ったときにそこにためていく。

○委員長（平嶋正一君） 森下部長。

○建設部長（森下義明君） 二日市中学校の下は貯水槽でございます。雨が降ったときに、普通だったら表面に降ったらすぐ河川に流れると河川がきつくなりまして、特に今、ゲリラ豪雨とかになってもものすごく瞬間的に雨が降りますので、そのピークをカットするために一回貯留をして、ゆっくり落ちついたときに流すことになりますので、オリフィスといって出口をちょっと小さ目しております。ですから、ばあっと降ったときに一定ずっと水位が上がってたまります。雨がやんだときに、オリフィスという最後のはけ口から徐々に、河川の水位が下がっているときにずっと排水して河川の排水を平準化するというのが貯水槽の考え方でございます。

○委員長（平嶋正一君） 田中委員。

○委員（田中 允君） 大体普通どれぐらいの雨なら、何時間ぐらいの雨量を……。よく集中豪雨がどうのこうの言いよるやない。何分とか何十分って時間に計算したら、大体何十分分ぐらいもてるというか。

○委員（上村和男君） 1時間に50ミリ降ったら30分ぐらいもつんですかね。

○委員長（平嶋正一君） しばらく休憩します。

---

休憩 午後4時38分

再開 午後4時40分

---

○委員長（平嶋正一君） 会議を開きます。

部長。

○建設部長（森下義明君） 申しわけございませんが、降雨量の強弱によって時間が変わるところで、済いませんが御認識いただければ幸いです。済いません。

○委員長（平嶋正一君） 辻本委員。

○委員（辻本美恵子君） 前の質問に戻るんですけど、私はこのトンネルをつくって70トンの効果を聞きたかったんですよ。今、二日市中学校のほうに行ってしまったけど、一つ桁が違うんですよ。900立米とこのトンネルが70トンということで、ためている物では

ないけれども、流れているけれども、結局川があふれそうになる水をちょっと横に逃がしているということで、70トンの効果というのは地上の商店街なんかにあふれていく水をどこまでカバーできるのかなというので。もっと大きい数字だと思っていたんですね。意外と70トンで、今の900トンの10分の1だったのかというところでは、どれぐらいの雨量に対して、ことし、去年、おととしの豪雨に対処できるのかなと思ったんです。

○委員長（平嶋正一君） 森下部長。

○建設部長（森下義明君） 近いうちにまた参考資料という形で、県が発行しています高尾川の書類を委員の皆様にお配りします。きょうはちょっと手持ちがございませんが、そこでの考え方として、今現在、表面の高尾川は毎秒40トンの水が流れます。それが平成26年8月22日の豪雨のときに大きく越流しまして、46件の床上浸水があったということで、これをどうにかとめなければならぬということで出ているのが、この下にこうなっております、地下河川でございます。毎秒30トンの処理能力があるということで、単純に言いますと、今の河川の下にその倍ぐらいの河川ができることとなります。この計算方法については、26年の大雨が降っても越流しないように設定されています。

○委員長（平嶋正一君） ほかに質疑はございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（平嶋正一君） 質疑を打ち切ります。説明ありがとうございました。

しばらく休憩いたします。

—————・—————・—————  
休憩 午後4時43分

再開 午後4時45分  
—————・—————・—————

○委員長（平嶋正一君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

引き続き所管事務報告をお願いします。

出席職員の紹介をお願いいたします。森下部長。

○建設部長（森下義明君） また職員が入れかわりましたので、自己紹介をさせていただきます。

○建築課長（永利啓次君） 建築課長の永利です。よろしく申し上げます。

○空家対策・建築計画担当係長（山本裕介君） 建築課の空家対策・建築計画担当係長の山本です。よろしく申し上げます。